
創 刊 の 辞

京都府立大学福祉社会学部は、創設後、はや三年を経過し、本年はいよいよ完成年度を迎えることになった。学部完成後の教育、研究両面における新たな飛躍に備えて、必要な体制と準備を整えておかねばならない年である。そのため、私たちは、現在、大学院修士課程の設置をはじめ、新たな教育・研究体制のあり方についての検討を行っている。

この時に、本学部内に、会員相互の研究の交流・便宜を図るとともに、福祉社会に関する研究の促進・普及・発展に資することを目的とした「福祉社会研究会」が設立されるとともに、その会誌『福祉社会研究』が創刊される運びとなった。これらのことは、学部の研究面における新たな飛躍を保障するための一つの重要な場を提供するものとして、誠に意義あることといえよう。

この間、私たちは、福祉社会の実現に寄与するという学部理念を実現すべく、教育面はもちろん、研究面においても大きな力を注いできた。研究面で活動を振り返ってみると、三つの領域に分けてみることができる。一つは、個々の教員による、それぞれの専門領域に関する研究の蓄積である。二つは、文部省科学研究費、京都府特別研究費等にもとづく、共同研究の推進とその成果の公表である。三つは教員相互の研究交流を深めるための例会「福祉社会フォーラム」の継続的な開催である。

『福祉社会研究』創刊の第一のねらいは、こうした本学部教員の研究の成果を世に問うための新たな場を設けるとともに、これを通じて、学生に対し学問的思索の指針を示唆することにある。二つは、学生、大学院生、卒業生等による優れた研究成果の発表の場を提供することにより、今後の一層の発展を図ることにある。

私たちは、こうしたねらいの下に、今後『福祉社会研究』を発刊していくことになるが、これに対しては、江湖の忌憚のないご比判が得られることを期待したい。そのことにより、研究のより一層の進展が図られることを願うものである。

2000年 6 月

京都府立大学福祉社会研究会代表

山 田 耕 造